

# 市長と話そう、まち育て タウンミーティング

第5回

中学生の  
みなさんと

- 日時 平成26年7月29日（火）
- 場所 北上市市民交流プラザ
- 参加者 市内中学生のみなさん 18人
- 市出席者 高橋市長、小原教育長、松田教育部長、高橋学校教育課長
- テーマ（1）市長への質問  
（2）未来の北上市へ望むもの  
（3）その他

中学生のみなさんと幅広いテーマでお話ししました。人口減少問題からマイマイガの駆除までいろんな意見が飛び出す、とても密度の濃い時間でした。そのやり取りの中からピックアップしたものをまとめました。



# 懇談テーマ(1) 市長への質問

北上中 吉武：

なぜ市長になろうと思ったのですか。

市 長：

私は3年前まで建築の設計の仕事をする一方で青年会議所やみちのく芸能まつりの実行委員会などに所属していました。

北上市では10年ごとに総合計画といってこれからの市の進むべき方向性を立てた計画を作っていますが、私は20年以上にわたり、いわばそのお手伝いをやってきました。

市 長：

そんな折、前市長が引退されると聞いた私の仲間から今度は市長としてまちづくりをしてはどうかと勧められました。私は市長や議員になることだけがまちづくりではないと思っていましたがせっかくそうしてもらえるのであればということで選挙に出ました。

市 長：

みなさんもこれから様々なお誘いを受けるでしょうが普段やっていることの延長だと思って、ちょっと足を踏み出すことが自分の人生の幅を広げます。それとまちづくりは学生でも、働いていても、誰でも参加できます。与えられた環境の中で、それぞれの活動が今の北上市を作っているのだと思います。

江釣子中 長谷川：

市が抱える問題は何ですか。また中学生でも取り組めることはありますか。

市 長：

最近特に話題なのは人口減少と高齢化だと思います。北上市でも13年前の総合計画から人口減少を見据えた地方都市の在り方を自分たちで考えてゆく計画を作っています。





市長：

今までは田んぼや森林をつぶして、中心部に空きを生じさせながらも水道や道路などの拡大を進めてきましたが、これを転換して今まで作った水道や道路を大切に使いながら足りなくなったら少しずつ作ろうとしています。

市長：

もう一点、少子化対策として子育てや教育、医療等の充実に取り組んでいます。ここ10年来、北上市で最もお金をかけているのは子育て分野です。またそれを支えるために産業、つまり働く場を用意する必要がありますね。

和賀東中 佐藤：

北上市では体育館や総合運動場などの施設は充実していますが、様々な年代の運動能力を上げるための活動には取り組んでいますか。

市長：

先日、岩崎小学校から夏油高原スキー場まで自転車で駆け上がる「きたかみ夏油高原ヒルクライム」という全国イベントを開催しました。参加最高齢は80歳で、私も59歳ですが参加しました。ほかにもシニアスポーツ大会の県大会では北上市が6連覇しています。北上市は競技の場所だけでなく競技を運営できる団体もたくさんあるので、県内では一番環境が恵まれている所だと思います。みなさんもたくさんのスポーツにチャレンジしてみてください。

市長：

ちなみに9月にはアジアマスターズ陸上競技選手権大会という19か国3,000人以上の方が集まる大会が開かれます。今後も子どもからお年寄りまで多くの方に参加していただきたいですね。

上野中：佐藤：  
北上の競技場に国立競技場のイスが来る  
ことになったのはなぜですか。



市長：  
北上の陸上競技場は1997年に作ったもので、15年以上経ったのでシートが  
傷んだりしています。再来年の国体開催にあたってはあまりお金をかけず  
に設備を整備する予定だったので、陸上競技場のフィールドなどは直しま  
したが、観客席までは直せないと思っていました。

市長：  
そんな時、市民の方から国立競技場を解体するのでイスをもらってはどうか  
という提案があったので、早速申し込みました。またイスの運搬もボラ  
ンティアでやろうという提案がありましたので、ボランティア総勢630人、  
うち岩手から230人、県外、主に東京から400人が参加していただいたわけ  
です。

市長：  
今まで活躍されたアスリートの方々の想いを大切にさせていただける方々の  
多さに驚き、ボランティアの方々と行って本当に良かったと思いました。



## 懇談テーマ(2) 未来の北上市へ望むもの

南中 及川：

私たちが中学校、高校、大学などを卒業したのち、地元に戻って働ける環境がたくさんあることを望みます。

市長：

そのとおりですね。地元で働きたくとも仕事がないのは困ります。北上市の企業誘致は80年くらい前から始まります。当時は中学を卒業しても地元では就職できず、農地を分けてもらうか、市外に働きに行くしかなかったのです。

市長：

そんな中、市内に残ってもらうようにと始めたのが企業誘致です。はじめはなかなかうまくいかなかったのですが、企業が欲しい人材を育成するため、当時の年間予算の大部分を使って岩手県で2番目の工業高校となる黒沢尻工業高校を作り、優秀な人材を企業に輩出できるようになったのです。

市長：

現在、工業団地及び流通基地は10か所あって、今まで290社を超える誘致企業が集積しています。震災から4年経ちますが、その間も20社の誘致が決まり、今後1,000人以上の雇用が決まっています。高卒者の就職率はほぼ100%を誇っています。今後はさらに大卒者の就職ができるような政策が必要だと思えます。

東陵中 菅原：

医療や福祉などをもっと充実させていただき、私たちもそうですが、年配の方も住みやすい北上市を作ってほしいです。



市長：

高齢者福祉は若い世代が高齢者を支えることで成り立っていますが、今後高齢者が増えて、若い人たちが減っていくと、昔は若者10人で1人の高齢者を支えていたのが、次第に5人で1人、のちのちには1人で1人を支えなければいけなくなります。福祉サービスに大きくお金をかけることは、それだけ若い世代であるみなさんへの負担につながるため、そう簡単にはいかないというところもあります。

市長：

特に誰かに決められた負担はなかなか払いたくないものです。もう数年経ったら、みなさんもぜひこれからの福祉を考える場に参加していただきたいと思います。

飯豊中 加納：

北上駅前はや風景で活気がないと思います。新幹線も通っているし、国体も行われるので、北上を象徴するようなお店や郷土料理店など商業施設も増やしてほしいと思います。



市長：

そうですね。もっと活気があっていいですよ。北上に東北新幹線が開業したのは1982年です。新幹線開業前は駅の西口は製材所があったぐらいで、駅の東側も特に何もありませんでした。

市長：

みなさんの親世代、祖父母世代の方が、新幹線の駅を作ろうという運動を行い、東京へ何度も陳情を行って盛岡、一関、北上に東北新幹線の駅ができました。やがて駅前に店舗や集合住宅が建設されて今の姿になりました。

市長：

ではこれからはどうなるかということ、昨年ピアすわちょうのアーケードを撤去しましたが、今後は北上駅とさくら野百貨店をつなぐ道路を中心に車いすやベビーカーを押しても歩きやすい道路にしていきたいと思っています。2年後には国体と合わせて全国障害者スポーツ大会も行われますので、障がいのある方々が気持ちよく歩いてもらえるような道路を整備する必要があると思います。みなさんもそういう町を歩いてもらえるとうれしいです。

和賀西中 柴田：

和賀西地域は年々人口が減り、また公共施設が老朽化していますが補修が十分とは言えません。北上市は中心部のみの発展ではなく、周辺地域も住みやすく人が集まるような市にしてほしいです。

市 長：

すばらしい提案ですね。今ではどこに行くにも自動車が必要です。クルマ社会になると、街の周辺にある農村部の人口が減ります。それから中心部の人口も減って、人口がドーナツ状になります。これはどういうことかと言うと、例えば、バイパスができれば、そこにショッピングセンターができ、車が利用しやすい場所だけがどんどん発達して、中心部も周辺の農村部も人口が減っていくことになるからです。これは今まで自動車に頼りすぎた政策をしてきたために起きた現象で、地方都市の病気と言ってもよいですね。

市 長：

これを治すために北上市で進めている政策を「あじさい都市」といいます。北上は16の地域からなっており、地域ごとに歴史や地理的な条件、人口は異なりますので、今年と来年と2年かけて、地域の方々と将来像を設計していきます。

市 長：

施設の老朽化は和賀地区だけの問題ではないですが、非常に古くなった施設や道路、橋が市内のあちこちで更新できないでいます。これを危険なものから順番を決めて、取り壊すものは取り壊し、維持するものについてはしっかりと安全な状態に直します。特に橋などは危険なものから順に改修して安全に使えるようにしていきます。決して街中だけにお金をかけているわけではなく、順番に行っていきます。



北上北中 梅木：

本校でも地域の一員として鬼剣舞の活動に自主的に参加している生徒がいます。この由緒ある伝統芸能である鬼剣舞を通じて世界に発信してはいかがでしょうか。



市長：

いいアイデアですね。鬼剣舞は、海外でも人気でオーストラリアにも団体があるんですが、芸能まつりにも来られるようです。また今年1月に沖縄県石垣市と友好都市の締結を行った際に岩崎鬼剣舞を披露したところ、大変喜んでいただきました。鬼剣舞は北上のみならず、岩手を代表する芸能ですから、これからもみなさんの子どもや孫の代まで伝えていかなければならないと思います。

市長：

頼もしいのは北上翔南高校で、全国高校総合文化祭で最優秀賞を取っています。今後も北上市を盛り上げていてもらいたいと思います。みなさんの中にも鬼剣舞をやっている方がいれば今後も続けていただきたいと思います。



# 自由懇談

和賀西中 柴田：

市長が僕たちに求めるものは何ですか。

市長：

何事にも積極的にチャレンジしてもらいたいと思います。一人で考えないでいろんな人とコミュニケーションをとって進路の幅を広げていってください。進路についても今決める必要はないですから、様々な人と話をしてほしいですね。

北上北中 及川：

公共施設の老朽化についてのお話がありましたが、北上北中学校でも特に校舎の老朽化が進み、雨漏りなどで困っています。また通学路の街灯が少なく、危険な箇所もあるのでそういった対策も考えてほしいと思います。

市長：

よい提案ありがとうございます。しっかりと聞いておきます。

小原教育長：

各学校とも大変不便を掛けており、大変心苦しいところがあります。今年度は通学路の歩道のカラー化に着手します。また雨漏りなど課題はたくさんありますが、少しずつですが予算を確保して、快適な学校生活のためこれからも努力します。

江釣子中 高橋：

北上市はスポーツに力を入れているというお話がありましたが、文化、芸術などの面についても積極的に活動していった方が良いと思います。例えば、学校では合唱とか。



市長：

全くその通りだと思います。北上市は他市と比べても市民文化活動が積極的に行われていると思います。例えば、さくらホールは大小たくさんの部屋がありますが、毎日ほぼ100%の稼働率となっており、市民の方がそれだけ活発な活動をしているという証拠になっています。

私が見る限り、県内では北上市と盛岡市の活動が盛んだと思います。盛岡市はややレベルが高いですが、決して北上市も負けてはいないと思います。